【て】　天災は忘れぬうちにやってくるけど、風化もされやすい

大きな災害があると、もうしばらくはないだろうと考えたいところですが、敵はそう簡単ではありません。確かに周期はあるようにも思えますが、大きな災害はその影響を潜在化させます。そうすると、何らかの小さな外力でも目を覚ましてしまうということになってしまいます。特に、最近の気象はこれまでと異なって、活性化しているように思えます。身近なことでも、暖かい海の魚が北の海で豊漁になったり、台風の進路もこれまでと違うものが多くなってきたりしています。異常気象が日常化しているということかもしれません。それは、自然災害にも影響してきて、危険区域の度合いが強まっているのではないでしょうか。まずは、地域のハザードマップを確認して、現地を専門家と一緒に見てみてください。敵は表に出ることを狙っているかもしれません。

【あ】　アウトリーチ活動は、災害への関心が高まり、防災へ貢献

より確かな科学的知見をわかりやすく専門家から伝えていただくと、より自然現象と自然災害の関係が理解できるようになります。災害はその種類によっても、発生する場所でも様子が異なりますので、防災は一様ではありません。大事なことは、何が起きているのか、どうなるのかを知って、安全に行動することだと思います。そのためにも正しい知識を持つことは大事なことです。そのような基礎知識があれば、様々な情報を重ねていくことで、一層の対応方法を案出することにもつながると思います。津波の例では、一度避難したところから再度高いところへ避難することで、犠牲者が出なかったということがあります。その時の判断は、まさに正しい知識のもとになされたことによります。訓練はあくまでも基礎であり、実践で応用することが必要になります。土砂災害における前ぶれを感知するというのも、正しい知識があるが故でもあります。

【さ】　災害対応で耳にする３連ことば　知って得することばかり

一つ目は、よく聞くことですが、「自助、共助、公助」が災害時には必要であり、それぞれの内容はご存じのとおりです。つまり、それぞれができる範囲ですべきことがあるということではあります。最近気になるのは、何でも役所任せの風潮があるような気がします。できることをできるところでやっていくことの大切さは、東日本大震災でも経験済みです。

二つ目は、ハザードマップを活用する上で、「見る、知る、考える」が大事だということです。ハザードマップはどんな災害が起きやすいかということを図示したものですが、これをうまく活用することで、地域知が豊かになり防災力が向上するので、眺めただけではもったいないと思います。

三つ目は、災害には「防げるもの、逃げれば防げるもの、あきらめるしかないもの」があるということです。台風、津波・土砂災害、地震・火山の特性が関係し、それに応じた知恵や工夫が求められていると思います。